

持続可能な地域づくりのための真庭の取組み

真庭市長 太田 昇

岡山県 まにわ 真庭市

人口：45,565人

面積：828km²

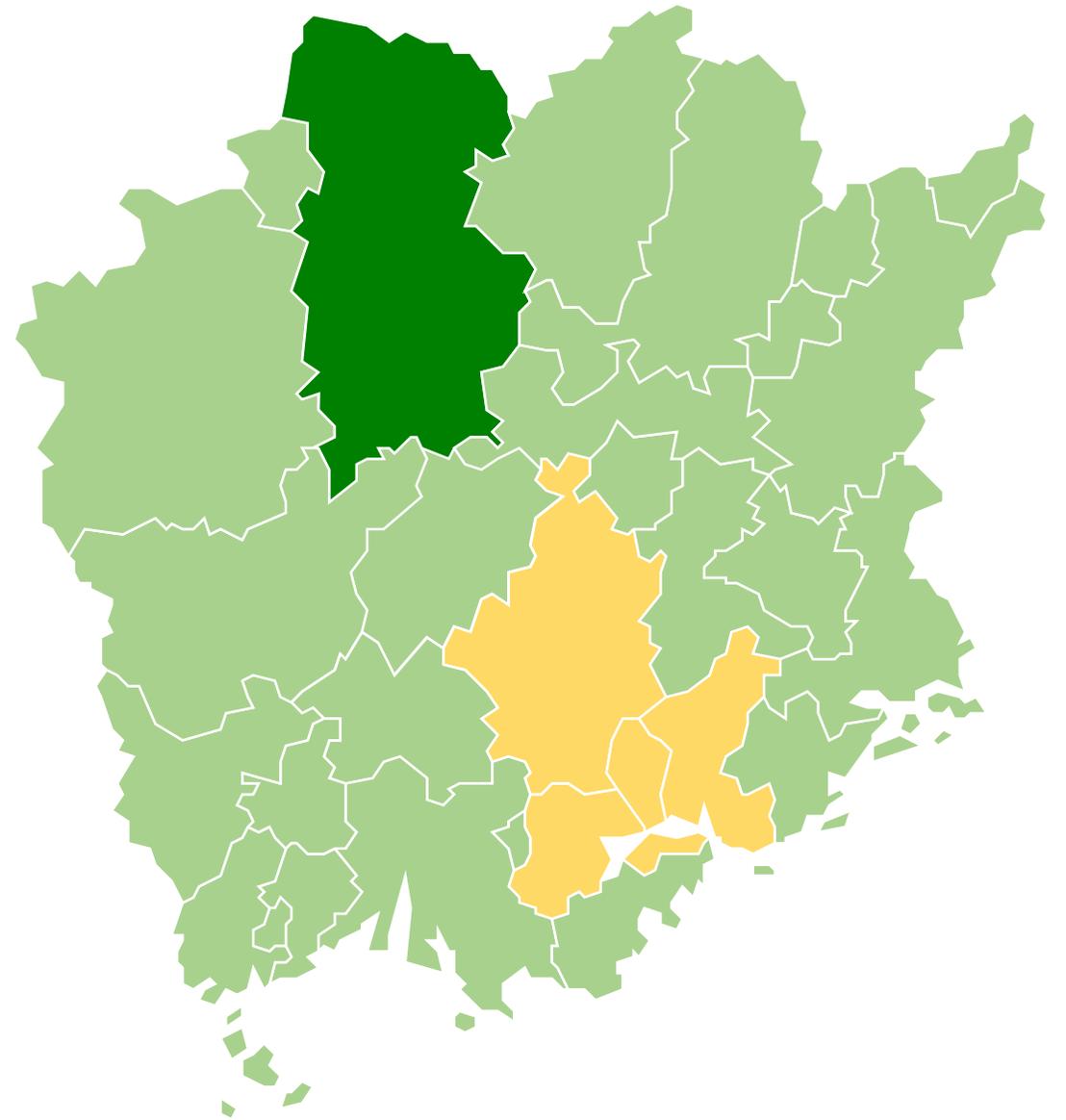
※東京23区の約1.3倍

■南北50km 東西30km

■標高：最低110m／最高1,202m

■気候：北部・豪雪／南部・温暖少雨

森林率：79%



真庭市は「里山資本主義」の舞台

『里山資本主義－日本経済は「安心の原理」で動く』
藻谷浩介（現 日本総合研究所調査部主席研究員）氏に
よって書かれた著書の中に出てくる概念

著書の中で真庭市の事例が多く紹介



「里山資本主義」とは？

- ・「マネー資本主義」（お金がお金を生む経済）にのみ依存するのではなく
 - ・ **金銭的価値のない日本古来・自然由来の資源に着目し、**
 - ・ 地域で暮らす人々の手によって新たに交換可能な価値が与えられ、
 - ・ **安心で将来性のある地域社会をつくるという新しい資本主義のあり方。**
- 様々な未活用資源が、地域住民によって活かされ、雇用を生み、地域全体の活性化に繋がる社会を作ることが理想としている。

真庭バイオマス発電

—運営—

真庭バイオマス発電(株)

地域内民間企業を
中心とする10団体で構成



■ バイオマス発電所の概要



発電能力：10,000kW

年間発電量：約81,000MWh

※一般家庭約22500世帯分の電力消費量

利用燃料：109,000 t /年

※未利用木、製材・端材樹皮を活用！

効果



経済	売上：約24.5億円 燃料購入費：約14.2億円
雇用	50人程度 発電所15人, 林業・木材業35人
環境	約67,000t-CO ₂ 削減 工不自給率11.6%⇒約33%

真庭市の地域戦略

－Question－

中山間地域の制約と課題は不利なのか？
たとえば、少子高齢化・地理的不利

解決すべき問題？

少子 →
高齢化 →
中山間地 →
山はお荷物 →

逆転の発想

- ・少ないからこそできる個性に合わせたきめ細かな教育
- ・知恵と経験のある人が豊富
- ・豊かな自然 精神的安らぎ 自立性の高さ
- ・木質資源の宝庫 エネルギー自給
エネルギー・雇用・産業・観光事業等の創出を実現

SDGsが叫ばれる以前から地域資源を活用していた

真庭版地域循環共生圏 の取組み



真庭バイオマスツアーの新たな展開（真庭観光局）

脱炭素でつながる

【コース①】木から電気を作る！ 真庭バイオマス発電所見学コース



所要時間：120分

【見学行程】

- ・林業バイオマス産業課説明
- ・真庭バイオマス集積基地
- ・真庭バイオマス発電所
マイクログリッドによる電力
の安定供給
- ・公共施設の発電利用
【場所：久世】

ゴミの減量でつながる

【コース②】生ごみの資源化！ バイオ液肥ができるまでコース



所要時間：120分

【見学行程】

- ・環境課 説明
- ・生ごみ液肥プラント
- ・バイオ液肥利用の野菜、
または圃場見学
（希望により、液肥野菜収穫
体験も可能）
【場所：落合】

木材の利用でつながる

【コース③】CLT・環境保全製品！ 誇れる真庭企業の新技術コース



所要時間：90分

【見学行程】

- ・銘建工業本社CLT説明
- ・銘建工業CLT工場
（受入不可日もある）
- ・CLT利用の建築物見学
- ・コンクリート会社「ランデス」
環境保全製品
【場所：勝山・久世・落合】

ESD（教育）でつながる

【コース④】食の安心・安全！ 食育から学ぶSDGsコース



所要時間：120分

【見学行程】

- ・真庭あぐりガーデン 説明
SDGsを楽しく学ぶ
- ・食育活動体験
ぬか床づくり体験
味噌玉づくり体験
ドレッシングづくり体験など
【場所：落合】

食でつながる

【コース⑤】循環農業！ 真庭里海米やバイオ液肥野菜の生産コース



所要時間：120分

【見学行程】

- ・農業振興課、環境課説明
- ・真庭里海米生産農家見学
- ・HAPPY FARM plus R
バイオ液肥利用の野菜圃場
（希望により、液肥野菜収穫
体験も可能）
【場所：落合】

地域資源でつながる

【コース⑥】地域資源利活用！ 蒜山の地産エネルギー利用コース



所要時間：120分

【見学行程】

- ・昭和化学工業 説明
- ・珪藻土の採掘からみる
蒜山100万年の歴史
- ・バイオマス熱風炉設備
- ・薪収集による里山の暮らし
- ・津黒高原荘の薪利用
【場所：蒜山】

令和2年度に内容をリニューアル：SDGsの観点で様々な地域の取組みを伝える形に

A. 里海米の事例



- ・ 森里川海のつながりの恵みを引き出すプロジェクト（流域連携）
- ・ 真庭市における環境目線でのブランディングの先駆け的存在に。
- ・ プロダクトアウトではなく、マーケットインの考え方
- ・ **環境と経済と社会の同時解決 = 持続可能な地域づくり**

B. 生ごみの液肥化の事例



- ・ 地域内での資源循環の実現。
- ・ 生ゴミの焼却費の削減と環境配慮型農業の同時解決
- ・ **環境と経済と社会の同時解決 = 持続可能な地域づくり**

C. 山焼き・草原生態系保全・茅の活用



- ・ 蒜山の観光資源である草原景観と生物多様性保全を実現
- ・ 茅の活用も図り、草原に経済価値を持たせる試みを実施
- ・ さらに収穫した茅を湯原地域の文化財の修復に活用
- ・ **環境と経済と社会の同時解決 = 持続可能な地域づくり**

※2020年3月 「蒜山振興計画」 を策定

隈研吾×三菱地所×真庭市の「CLT 蒜山⇄晴海プロジェクト」が2019年より始動しており、2021年には東京の晴海から蒜山に移築され、新たな観光拠点として整備される。



目指す姿（=新会社の事業のゴール）

蒜山の自然と暮らしを生かした観光

「蒜山の豊かな自然や文化、歴史を体験し共感する。」
環境と観光が調和した観光地域づくりを進めることで、

先人から引き継がれてきた蒜山地域の
自然、文化、景観を次世代に引き継ぎ、

人と自然が共生する「共生社会」の実現をめざす。

真庭市蒜山地域振興計画基本構想より

環境を活かした地域価値を上げる事業がスタート

持続可能な地域づくりのためにブランディングを実施



多様な取組みを行う中で
“多くの人に理解・共感される”
形で取組みを発信する必要

GREENable

“グリーンナブル”ブランド
の創造

阪急百貨店と連携し、価値に共感する企業との連携を図る

蒜山高原
来訪者200万人/年
⇒4割が京阪神から



相互送客
(価値観の共有)

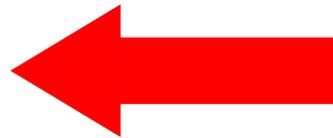


- ・バイオマス発電など環境取組の先進地
- ・自然環境保護・保全活動が多種活発
- ・自然を活かしたレジャーが豊富



- ・顧客の環境に対する急速な価値観変化対応に苦慮
(CSRからCSVへの転換が後手)
- ・狭い店内では表現が難しい「自然共生」
- ・モノの陳列では表現できない自然のスケール感

- ・長引く観光業の苦戦
- ・人手不足で継続が危うい観光保全活動
- ・顧客年齢層をシニアから若返らせたい



- ・市場での実戦経験で培った集客ノウハウ
- ・環境活動への参加に感心を持つ都市生活者急増
- ・ミレニアル「自然共生はファッションの要素」

価値に共感する企業との連携

持続可能な地域づくりの価値 に共感して、多くの企業が GREENableブランドに参画 ※令和3年度より人事交流も

環境省／グッドライフアワード

「環境と社会に良い暮らし」の実現を目指し、環境省が提唱する地域循環共生圏の理念を具現化する取組を表彰するプロジェクト。



阪急阪神百貨店

2022年に阪急うめだ本店に、サステナブルフロアがOPEN。GREENable HIRUZENと連携



一連携の考え方

国や企業との連携による真庭からの発信力の強化

ECOALF／三陽商会

全てのアイテムを再生素材や環境負荷の低い天然素材のみで作っている、スペイン生まれのサステナブルファッションブランド



Johnbul／rebear by Johnbul

在庫商品を布にまで分解し、余った布などと組み合わせ新たなプロダクトを開発することで、在庫廃棄を減少させる取組み



一連携の考え方

真庭で取り組む循環型社会と親和性の高い、ゴミを資源にし、それらを活用した商品化を行う企業を選定

FOOD TEXTILE／豊島

廃棄食材より染料を抽出し、衣類やバッグなどに用いることで、サステナブルなファッションを提案



yukimidori

真庭に多く植生する黒文字。間伐した黒文字から抽出したオイルを化粧水やアロマに展開する



美作ビアワークス

真庭のクラフトビール醸造所。蒜山産のオリジナルビールの開発を進める



一連携の考え方

地元の農作物や自然資源を活用した商品開発を進める

なぜ真庭市が様々な企業と連携できるのか？

- ①多様な地域資源（人・集落・なりわい・自然）を見つめなおしてきた
⇒価値の無かったものに光を当ててきた地域＝イノベーション
- ②木質バイオマスをはじめ地道に持続可能な仕組みを作ってきた
⇒“事実”がしっかりある地域＝絵空事ではない
- ③地域のチカラを活かしながら都市部の力を借りることができた
⇒一緒に考え、取り組むことができる地域＝パートナーシップ

多くのパートナーと地域資源を「見つけ、育て、つながってきた」
からこそ、共感が得られるようになったのではないか？

これからの真庭市が目指す姿（将来展望）

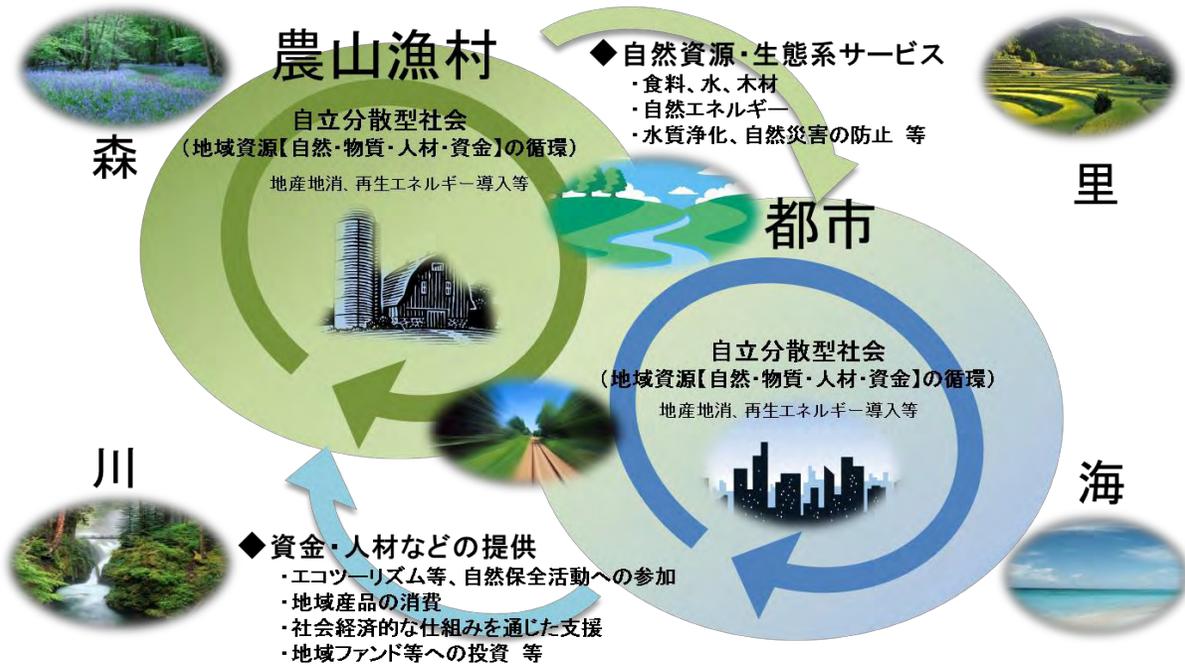


図. 地域循環共生圏の理念
(出典：環境省)

地域資源を活かした 様々なパートナーシップを実現

- ・ バイオマス発電のさらなる普及
⇒ エネルギーの地産地消
- ・ 環境に配慮した農産物の普及
⇒ 安心安全な農業の実現による
高付加価値化、自給率の向上
- ・ 岡山連携中枢都市圏での取り組み
⇒ 旭川を介した地域循環共生圏

持続可能な地域づくりを進めることで、多くの人に共感される地域へ